薬理学Ⅳ Pharmacology Ⅳ

医療科目　3 年／後期　1.5 単位　必修科目

科目責任者　**大石　一彦（薬理学研究室）**

▌教育目的

本講では、ホルモン関連薬、代謝性疾患治療薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬などの薬理作用・機序を中心として講義し、それらの治療薬の有効性・安全性の薬理的基盤を学習していく。【卒業認定・学位授与の方針；YD-②】

▌学習到達目標

ホルモン関連薬、代謝性疾患治療薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬などの薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。（知識）
薬物の相互作用、依存性・耐性、副作用、毒性について具体例を挙げて説明できる。（知識）

▌準備学習（予習・復習）

予習：講義テキスト・参考書の該当箇所に目を通しておく（30 分以上）。
復習：講義テキスト・参考書・演習問題等を活用し、講義内容を復習するとともに、関連事項について調べ知識を整理する（30 分以上）。

▌授業形態

講義

▌授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	感染症と薬	抗菌薬	E2 (7)-①-1
2	〃	抗原虫・寄生虫薬、抗真菌薬	E2 (7)-⑤-1 E2 (7)-⑥-1
3	〃	抗ウイルス薬	E2 (7)-④-1 ～ 5
4	悪性腫瘍と薬	抗悪性腫瘍薬	E2 (7)-⑧-1 ～ 3
5	〃	〃	E2 (7)-⑧-1 ～ 3
6	〃	〃	E2 (7)-⑧-1 ～ 3 E2 (7)-⑩-1
7	感覚器に作用する薬	眼に作用する薬物 耳・鼻に作用する薬物 皮膚に作用する薬物	E2 (6)-①-1 ～ 3 E2 (6)-②-1 E2 (6)-③-1 ～ 3 E2 (6)-④-1
8	ホルモンと薬	ホルモン分泌異常症の治療薬	E2 (5)-②-2 ～ 4
9	〃	〃	E2 (5)-②-2 ～ 4 E2 (5)-③-1
10	〃	性ホルモン関連薬	E2 (5)-②-1
11	代謝系に作用する薬	糖尿病治療薬	E2 (5)-①-1
12	〃	脂質異常症治療薬 高尿酸血症・痛風治療薬 カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する治療薬	E2 (5)-①-2,3 E2 (5)-③-1
13	医薬品の安全性	薬物相互作用	E1 (1)-①-8
14	〃	薬物依存性、耐性	E1 (1)-①-9
15	〃	有害事象、副作用、毒性	E1 (4)-①-1,2

▌授業分担者

野澤　玲子（No.1 ～ 7）、大石　一彦（No.8 ～ 15）

▌課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

演習問題を解いて理解度を確認し、解説等によりフィードバックを行う。
学期末試験（90 %）および出席状況・授業態度（10 %）で総合評価を行う。

▌教科書

必要に応じてプリントを使用

▌参考書

『新　図解表説　薬理学・薬物治療学』 菱沼　滋　著（医学評論社）

『薬理学－医薬品の作用』 竹内　幸一　他　編著（廣川書店）
『NEW 薬理学』 田中　千賀子　他　編著（南江堂）
『グッドマン・ギルマン薬理書(上・下)』 高折　修二　他　監訳（廣川書店）